

外部評価結果総括表

事業所名	チャール 花明かり、友明かり
評価確定日	2007年2月20日
評価機関名	特定非営利活動法人HEART TO HEART

I 運営理念

特記事項	領域		評価項目数	改善が必要な項目数		判断が不能な項目数
	領域	領域		改善が必要な項目数	判断が不能な項目数	
運営理念・運営理念の啓発			3	0	0	
特記事項	立ち上げより4年目を迎え、大理念「生きてるって素敵」をモットーに各ユニット毎の理念も作り、運営の柱としてきた。具体的にホームは生活の場であること、その生活の主体が入居者になることを目指して取り組んできた。職員は自立を促す関わりの大切さを理解して実践をしているが、ゆとりがないときには、職員ペーパースになってしまいうことも振り返っている。職員定着率が低いユニットもあり入居者に対してだけでなく、管理者、リーダー、職員間も「生きてるって素敵」という関係性を大切にしていること、難しさを課題としている。					

II 生活空間づくり

特記事項	領域		評価項目数	改善が必要な項目数		判断が不能な項目数
	領域	領域		改善が必要な項目数	判断が不能な項目数	
家庭的な生活環境づくり			4	4	0	
心身の状態に合わせた生活空間づくり			6	6	0	
特記事項	田園地帯一角に明るい外壁の2階建てのコーポのような外観のホームがある。道路に面して、ホーム名の木製看板を立てている。南入り口は間口が広くオープンで、緩やかな手すり付きのスロープに、花を植えた花壇がならび玄関に導いている。ホーム内は、バリアフリーで床はフローリングで、手すりは高齢者の背丈を考慮して低めである。廊下にも畳表のベンチを置いている。2階ユニット入居者のためにエレベーターの設置がある。壁には入居者と製作した刺子タペストリー、入居者の沢山の写真、習字作品を飾っている。大きなクリスマスツリーも飾ってある。居室は、南北の廊下を挟んで西向き4室、東向き5室配置し、各室に鍵と電気メーターを取り付け、長屋の住人の様相である。キッチンはオール電化、シンクは広いアイランド型で低めにしたオープンキッチンである。居室エアコン暖房での乾燥を防ぐ為に濡れタオルの交換をしている工夫をしている。					

III ケアサービス

特記事項	領域		評価項目数	改善が必要な項目数		判断が不能な項目数
	領域	領域		改善が必要な項目数	判断が不能な項目数	
ケアマネジメント			7	7	0	
ホーム内でのケア			7	5	0	
介護の基本的な実行			7	2	0	
日常生活行為の支援			9	9	0	
生活支援・ホーム内生活拡充支援			2	0	0	
医療・健康支援			7	7	0	
特記事項	入居者の行動障害には、原因・背景・本人の心・課題・対応策を丁寧に議論し、介護計画に反映している。個人別の生活記録表の様式には、介護計画を記載する欄を設け、実施をチェックする工夫がある。家族にセンター方式アセスメントシートを使い、思いを記入してもらって介護計画へ反映する取り組みに努めている。職員の子どもがホームに遊びにきて入居者と自然に接している。入居者を認知症の人としてではなく、個性ある一人の個人として関わっている。居室は本人の意思で鍵をかけることができ、首から鍵つきの紐をかけて管理する人もいる。タバコと火は本人の判断力を見て自己管理で行っているが、火の始末は見守りだけで徹することができなく、ホーム全体を巻き込む恐れもあることの危険について心配をしている。共同生活者の全体の命を守ることは、大勢の命を託されている事業者の責任であるので「火気を取り扱わない」がポイントラインをホームで取り決め、家族会に提案をし了解を求めていってほしい。月1回往診医師と訪問看護の来訪がある。医療連携体制による訪問看護の体調チェックで変化があると各ユニットに報告がありアドバイスを受けている。入居者は散歩、喫茶店モーニング、買い物は日常の外出で、外食ランチ、遠足、ドライブなどホーム内に閉じこもらない外出支援を行っている。					

IV 運営体制

特記事項	領域		評価項目数	改善が必要な項目数		判断が不能な項目数
	領域	領域		改善が必要な項目数	判断が不能な項目数	
内部の運営体制			11	11	0	
情報・相談・苦情			2	2	0	
ホームと家族との交流			3	3	0	
ホームと地域との交流			5	4	1	
特記事項	一部ユニットで職員が定着しない問題に対しては、法人全体の人事管理、人材育成の課題として真剣に検討をしていた。管理者とリーダーと職員が同じ意識を持って取り組むためには、ホームが大事管理、人材育成の理念について話し合いを持っていることが望まれる。運営推進会議には、地域包括支援センターの職員、町内会長、老人会、民生委員が出席し2ヶ月1回行われている。運営推進会議委員から「こんなに落ち着いて暮らせるならホームに入らなくても」との発言に参加家族が困惑することがありホーム側が気づくことがあった。認知症介護の現実や家族介護者の葛藤などの理解の難しさを感じるエピソードであるが、ホームと触れ合うことをおしえて時間をかけて認知症への理解を深めていくことを期待したい。多数のボランティアを確保し、大正琴、コーラス、落語、太極拳などの多彩な取組みを行っている。					

【謹評(全体を通して)】

代表者トマズネジャーは夫婦、管理者は娘という家族を主軸として運営の協働を図っているが、ユニットリーダーとのリーダーミーティングを大切にしている。1ユニットのホームから2ユニットのホームを経て4年目をむかえ、新たに2ユニットのグループホームと小規模多機能施設の市内での開設に向け取り組んでいる。地域密着型サービスと同一市内で複数展開していくことで、地域貢献を目指している意気込みがうかがわれるが、一方で、一つ一つのユニットの安定した運営とユニットリーダーの育成、理念を共有化したスタッフ育成のための課題に取り組んでいくことも大切であると感じられた。各ユニットリーダーが抱えている課題は、それぞれ異なるが、基本となる柱は、管理者が大切にしている「生きていくって素敵」と思える家に、自分らしく誇りを保ち、自分でやれる喜びと達成感のある暮らしの共有化である。そのためには、入居者だけでなく、職員どうしそれぞれ能力や個性が尊重され、職員も自分でやれる喜びと達成感のある仕事が行える環境が大切である。職員どうしの支え合い、助け合いの関係、チームワークの育成をさらにめざしてほしい。